

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 9 月 6 日現在

機関番号：32682

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K20735

研究課題名（和文）EU域外国境管理と移民保護の思想と実践 欧州委員会、Frontex、受入施設

研究課題名（英文）EU external border control and migrant protection ideology and practice &amp;#8211; European Commission, Frontex, reception facilities

研究代表者

荒又 美陽（ARAMATA, MIYO）

明治大学・文学部・専任教授

研究者番号：60409810

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,800,000円

研究成果の概要（和文）：研究代表者の荒又は、日本の移民研究の現状とヨーロッパにおける移民受け入れの現状を分析し、今後の研究では1）「人道的」支援の限界から目を背けないこと、2）移民の自主的なキャンプをコモン化の議論に接続すること、3）情動による地理的想像力のあり方に注視する必要があることを指摘した。研究分担者の内藤は、ヨーロッパの移民受け入れの調整弁ともなっているトルコの現代政治を研究することによって、EUの政治状況の限界を多様なレベルから分析した。COVID19による渡航制限で現地調査に困難があった間には、日本の移民受け入れの実態の研究も行い、地理学的な研究者のネットワークづくりにも成功した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の移民研究に関しては、時代的・視角的偏りが日本における外国人への制度的な差別につながっている可能性を指摘し、アカデミアがより長いスパンで、より広い視野をもって情報を提供すべきであることを指摘した。具体的には、ヨーロッパの移民を考える際に、排他的な主張ばかりに着目するのではなく、常に人権を重視する理念が提示されていることを注視すべきといえる。またトルコの政治情勢の分析により、欧米の報道に頼ることが他の社会の政治状況の理解を歪曲化する可能性についても指摘し、COVID19やウクライナ戦争によって制限の大きくなった現地調査がむしろ現在、重要を増していることも具体的な事例やデータとともに指摘した。

研究成果の概要（英文）：Aramata analyzed migration studies in Japan and the current state of migration reception in Europe, and suggests that future research should 1) not turn away from the limits of 'humanitarian' assistance, 2) connect voluntary camps of migrants to debate the commoning, 3) pay attention to geographical imagination through affection. Naito analyzed the limits of the EU political situation at various levels by studying the contemporary politics of Turkey, which serves as the coordinating valve for European migration. During the period when travel restrictions due to COVID-19 made field research difficult, research on the actual situation in Japan was also conducted, successfully creating a network of geographical researchers.

研究分野：人文地理学

キーワード：移民 ヨーロッパ トルコ フランス EU 非正規移民 難民

### 1. 研究開始当初の背景

本研究の申請時には、シリア内戦を主な契機とする、ヨーロッパにおけるいわゆる「難民危機」からそれほどの時を経ていなかったために、トルコからヨーロッパへの移民・難民の移動ルートを確認し、そこから見えてくる EU の制度の実態を検証するとともに、都市レベルでの受け入れ施設を設置したパリを含む各地の受け入れ施設を訪問するなどして、EU 域外国境と移民保護の思想と実践を見ていこうとしていた。しかし、研究費申請が採択された 2020 年 7 月は、COVID19 パンデミックにより、世界各国が国境の実質的な封鎖と外出規制を行い、申請時に考えていたような研究が期間内に可能になるのかどうか、全く予測できない状況にあった。どちらともつかないまま、貴重な研究機会を無駄にしないよう、EU の制度について相対的に捉える目的もあり、日本の移民・難民管理と実態について専門家たちに調査協力を仰ぐことにより、研究を前に進めることとした。

### 2. 研究の目的

本研究は、ヨーロッパにおける EU 域外国境管理の問題性を明らかにするとともに、移民保護の在り方についてトルコやヨーロッパの思想をもとに検討し、日本の移民・難民・外国人にかかわる問題について考察を深めるものである。

ヨーロッパでは、2015 年にトルコからギリシャを経由するルートを中心に、100 万人もの移民が到着したことをきっかけに、移民への忌避感が高まり、排外主義的な政党が多く支持を得るなどの政治状況が拡大している。いわゆる地中海東ルートからの移民は、トルコと EU の協定によって減っているものの、逆にそれによって地中海の別のルート(西ルートはモロッコ スペイン経由、中央ルートはチュニジア・リビア イタリア経由)を選択したことによる死亡者は増大している。ヨーロッパの移民に関する最大の問題は、もはや労働者や家族、異なる宗教の社会的統合ではなく、目の前にいる生身の人間の生死をいかに受け止めるのかというプリミティブともいえる問題である。そこに国が対応しきれずにいる中、多くは NGO などによる支援が広がっており、また都市行政で保護を実践しているところも出現している。ヨーロッパの人権保護の思想については、変化も含めて検討していくことが求められている。

他方、トルコは、シリアを逃れてくる人々を難民認定するのではなく、あくまで外国人として保護しており、またヨーロッパに逃れようとする人々への草の根レベルの人道支援も盛んである。ヨーロッパ由来の制度が限界を迎える中、それは世界レベルへの新たな手法の発信にもつながりうる。

本研究は、トルコとヨーロッパの実践を手掛かりに、移民保護思想の現在をつかみ、日本の移民政策に積極的な貢献をしていくものである。

### 3. 研究の方法

当初は、COVID19 による渡航制限が厳しく、帰国後の隔離期間などの問題もあって、資料収集や現地調査のための 1~2 週間程度の短い渡航がかなわなかったため、インターネット上で公開されている行政情報と関連ニュース、既存研究の収集を行い、重要文献の翻訳を含め、分析を行った。研究組織内においては、東京での数回の科研打ち合わせも行った。研究期間の最後の方になってようやく、ワクチン接種が普及したことによって制限が緩和されたため、2022 年 3 月、2023 年 3 月には研究代表者の荒又が、2023 年 5 月には研究分担者の内藤が、それぞれフランスとトルコの現地調査を行った。

また、日本の状況との比較の視点を取り入れるために、牛久の入管施設と埼玉県川口市のクルド人コミュニティ、いわゆるワラビスタンの研究を行っている三浦尚子さん、性的マイノリティの研究から難民認定と差別の研究を行っている須崎成二さん、フランスを中心としたヨーロッパのイスラモフォビーについて研究している佐藤香寿実さんに研究協力者になっていただき、調査協力を依頼するとともに、2022 年 10 月には京都での合同研究発表会を開催した。さらに、2020 年 12 月に映画『僕の帰る場所』(藤元明緒監督 2017 年)の上映会を行ったほか、2022 年 3 月に映画『牛久』(トーマス・アッシュ監督 2021 年)の公開上映を研究協力者らと鑑賞し、議論することを通じて、視野を広げ、ヨーロッパの特色をつかむことに努めた。

### 4. 研究成果

研究成果は大きく 3 つある。一つは、世界の動向からヨーロッパを捉える視点を得たものであり、『女性の世界地図』(2020 年荒又翻訳)、『プロパガンダ戦争』『イスラームからヨーロッパをみる』(いずれも 2020 年内藤著)によって、ヨーロッパにおける主要な政治的判断が時には弱者を追い詰める思想につながることを明らかにした。二つ目は、日本の移民・外国人対応が想像以上に冷酷なものであり、ヨーロッパやトルコと比較するという方法には限界があるという理解に到達したことである。欧米を先行事例とするのではなく、日本の文脈における人権思想の確立が求められる。三つめは内藤による一連のトルコの現代政治の分析であり、エルドアン政権が欧米の政治分析では読み取れないある到達点を示していることが明らかになった。

荒又による2024年3月発行の論文は、以上のような理解と実態分析を日本の移民研究動向とヨーロッパの実態からまとめたものであり、本テーマに関する地理学的な研究の視点を得ることにつながった。具体的には、1)「人道的」支援の限界から目を背けないこと、2)移民の自主的なキャンプをコモン化の議論に接続すること、3)情動による地理的想像力のあり方を挙げるることができる。次の研究につなげていきたい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 荒又美陽	4. 巻 181
2. 論文標題 非正規移民の人権保護をめぐる地理学的研究を考える 日本における研究とヨーロッパの現状の整理から	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 駿台史学	6. 最初と最後の頁 49-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 オギュスタン・ベルク、荒又美陽 訳	4. 巻 26
2. 論文標題 日本における北海道の空間的位置づけ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 空間・社会・地理思想	6. 最初と最後の頁 27-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 須崎成二	4. 巻 176
2. 論文標題 セクシュアルマイノリティの受入をめぐる日本の二重規範	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 駿台史学	6. 最初と最後の頁 55-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Masanori Naito	4. 巻 9
2. 論文標題 From Global Resource Management to Advanced Liberal Arts	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Global Resource Management	6. 最初と最後の頁 6-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 オギュスタン・ベルク、荒又美陽 訳	4. 巻 25
2. 論文標題 植民地化と社会変動	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 空間・社会・地理思想	6. 最初と最後の頁 173-196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 ジル・バレンタイン、須崎成二 訳	4. 巻 25
2. 論文標題 いかなる嫌がらせを受けても	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 空間・社会・地理思想	6. 最初と最後の頁 85-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 内藤正典	4. 巻 542
2. 論文標題 トルコ情勢の変遷と展望	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中東研究	6. 最初と最後の頁 66-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内藤正典	4. 巻
2. 論文標題 アフガンと向き合う 人権・自由、欧米と違う土台	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 朝日新聞	6. 最初と最後の頁 13-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 内藤正典
2. 発表標題 大統領選挙後のトルコ～内政と外交
3. 学会等名 公益社団法人日本記者クラブ（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 内藤正典
2. 発表標題 トルコ大統領選挙後の内政と外交
3. 学会等名 JETROイスタンブール事務所, イスタンブール日本人会, トルコ日本人商工会連絡協議会 (JBGT), 日本・トルコ協会共催（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 内藤正典
2. 発表標題 大統領選挙後のトルコの内政や外交 (対米欧・NATO、対露中、対中東) について
3. 学会等名 国際経済研究所（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 内藤正典
2. 発表標題 トルコ建国100年の自画像
3. 学会等名 公益社団法人日本記者クラブ（招待講演）
4. 発表年 2023年

## 〔図書〕 計12件

1. 著者名 内藤正典	4. 発行年 2023年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 286
3. 書名 トルコ 建国一〇〇年の自画像	

1. 著者名 内藤 正典、山本 忠通	4. 発行年 2022年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 288
3. 書名 アフガニスタンの教訓 挑戦される国際秩序	

1. 著者名 内藤 正典	4. 発行年 2022年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 128
3. 書名 トルコから世界を見る	

1. 著者名 公益社団法人日本地理学会	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 842
3. 書名 地理学事典	

1. 著者名 内藤 正典	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 244
3. 書名 なぜ、イスラームと衝突し続けるのか	

1. 著者名 内藤正典	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミシマ社	5. 総ページ数 184
3. 書名 教えて！タリバンのこと	

1. 著者名 同志社大学良心学研究センター、内藤正典ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 同志社大学良心学研究センター	5. 総ページ数 141
3. 書名 パンデミック時代における良心	

1. 著者名 平田 周、仙波 希望 荒又 美陽ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 以文社	5. 総ページ数 456
3. 書名 惑星都市理論	



1. 著者名 ジョニー・シーガー、中澤 高志、大城 直樹、荒又 美陽、中川 秀一、三浦 尚子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 216
3. 書名 女性の世界地図	

1. 著者名 内藤 正典	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 282
3. 書名 イスラームからヨーロッパをみる	

1. 著者名 内藤 正典	4. 発行年 2020年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 272
3. 書名 プロパガンダ戦争 分断される世界とメディア	

1. 著者名 アフメト・ダウトオウル (著), 内藤正典解説 (その他), 中田考監訳 (翻訳)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 書肆深水	5. 総ページ数 512
3. 書名 文明の交差点の地政学 トルコ革新外交のグランドプラン	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	内藤 正典  (Naito Masanori)  (10155640)	同志社大学・グローバル・スタディーズ研究科・教授    (34310)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関